

【テーマ②】「白山古道」の宮司家を核とした地域再生に係る官民連携手法等調査

【調査主体】岐阜県郡上市(人口3.6万人)

調査目的・概要

山岳信仰・白山信仰では、石川・福井・岐阜の3か所から白山へ参詣する道(白山禅定道／文化庁「歴史の道百選」選定)が開かれ、それらの起点には馬場と呼ばれる参詣拠点があった。岐阜県における馬場(美濃馬場)は郡上市白鳥町の長滝白山神社・長瀧寺におかれ、同社の宮司家の主屋は県文化財に指定されている。郡上市では、中部縦貫自動車道や濃飛横断自動車道の全通を見据え、参詣道とその周辺エリアについて、白山信仰に関わる歴史文化・古道・民俗芸能・有形文化財・食文化・歴史的建造物等の資源、並びにエリア内の博物館・道の駅等の既存施設を結び付けて、「白山古道」としてブランディングする計画である。これにより、エリア価値を向上させ、インバウンドの受け入れ等により経済の好循環を生み出し、歴史文化の保全と地域再生を図りたいと考えている。本事業では、「白山古道」エリアの入り口となる長滝白山神社の宮司家・若宮家住宅を、官民連携により保存活用する方法を調査する。

調査内容・スケジュール

1. 現状・課題の整理

若宮家および長滝地区の現状・課題の整理

2-1. 文化財調査

専門家による建物調査の実施
構造・劣化状況及び保存・活用の課題の把握

2-2. 資源調査

周辺地域の歴史・観光・産業資源の整理
エリア開発の可能性調査

3-1. 若宮家保存活用基本計画策定

県指定文化財として、保存修理と活用整備を両立させる基本計画の策定

3-2. 耐震対策基本計画策定

利用者の安全確保を前提に、文化財的価値を考慮した耐震対策基本計画の策定

3-3. 郡上市長滝地区再生計画の策定・事業推進体制の構築検討

エリア開発計画の策定、官民連携による事業推進体制の構築
関係者による検討会の開催

- 文化財を単体で活用するのではなく、地域として面で捉え、文化財活用を契機としたエリア開発による官民連携型の地域再生モデルの構築を行う。
- 地域に雇用と内発型産業を創出する持続可能な事業体制、かつ地域に根差した運営組織の確立について調査する。
- 多くの地方自治体では寄附等により文化財を所有し、管理運営経費の負担が課題になっている。
- 施設の持続可能な保存のためには、学校教育、社会教育、地域交流としての活用だけではなく、文化創造や飲食・宿泊の観光活用などを検討する必要がある。
- 指定文化財の建造物については、国登録有形文化財等よりも厳格な保存修復が求められることから、一般的には公開にとどまることが多い。
- 本モデルは、文化財の保存活用を基点に地域再生を事業展開するもので、少子化・高齢化・人口減少が進行する地域への横展開可能な事業モデルとなる。

調査内容	6月	8月	10月	12月	2月
現状・課題の整理		■			
文化財調査・資源調査		■	■		
計画策定			■	■	
検討会の開催		■	■	■	
まとめ					■

【テーマ②】「白山古道」の宮司家を核とした地域再生に係る官民連携手法等調査

【調査主体】岐阜県郡上市(人口3.6万人)

事業・施設の概要

【事業の概要】

- 白山信仰における、岐阜県側の参詣拠点である美濃馬場は、郡上市白鳥町長滝地区の長滝白山神社・長瀧寺におかれた。同社の宮司家・若宮家の主屋は県文化財に指定されている。この地域には、それ以外にも白山信仰に関わる多くの文化財が受け継がれている。
- 郡上市では、中部縦貫自動車道や濃飛横断自動車道の全通を見据え、白山への参詣道と周辺エリアについて、白山信仰に関わる歴史文化・古道・民俗芸能・有形文化財・食文化・歴史的建造物等の資源、並びにエリア内の博物館・道の駅等の既存施設を結び付けて、「白山古道」としてブランディングする計画である。これにより、エリア価値を向上させ、インバウンドの受け入れ等により経済の好循環を生み出し、歴史文化の保全と地域再生を図りたいと考えている。
- 本事業では、この「白山古道」エリアの入り口となる宮司家・若宮家住宅を官民連携により保存活用する方法を調査する。

【施設の概要】

- 名称: 若宮家住宅(主屋、爛柯亭、蔵等)
- 所有者: 岐阜県郡上市
- 所在地: 岐阜県郡上市白鳥町長滝138

• 主な建物

- ①主屋: 長滝白山神社の宮司家。桁行9.5間、梁間5間、切妻、屋根鉄板葺。天明5年・文化8年の棟札あり。岐阜県指定重要文化財。
- ②爛柯亭: 谷崎潤一郎の『細雪』に登場する建造物。文化財指定なし。



若宮家住宅主屋

事業・施設の課題

- 郡上市は、急速な過疎化、少子化、高齢化の進展により、これまでの方法では文化財を維持・保存することは困難になると予想される。このため、官民連携により文化財を活用しながら保存する仕組みの構築が急務である。
- 若宮家住宅は、歴史的な価値と潜在的な活用可能性を有し、地域再生の要となるが、多雨多雪地域等のため劣化が著しく、保存のためにも早急に整備活用をする必要がある。

検討経緯／事業化スケジュール

- 「郡上市文化財保存活用地域計画」(令和7年12月認定)に「若宮家住宅等の保存と地域に根差した活用の推進」を記載。

【これまでの調査経緯】

- 平成17年度 石徹白の歴史的建造物とまちなみ調査(工学院大学・後藤治研究室他)
- 平成19年度 石徹白若宮報告書(工学院大学・後藤治研究室)
- 令和5年度 若宮家住宅調査・構想策定
- 令和7年度 郡上市文化財保存活用地域計画の認定

【事業化スケジュール(予定)】

- 本事業実施と並行し、郡上市歴史的風致維持向上計画の変更に係る協議を進めるとともに、岐阜県と文化財に係る協議を行う。
- 別事業で実施する白山参詣道整備に係る調査(R8は市・県費)との成果を共有し、「白山古道」エリアでの価値を確認する。
- 運営主体となるまちづくり会社の設立、活用に向けた整備等を進める。